



発行 昭和大学病院、昭和大学病院附属東病院  
発行責任者 昭和大学病院長 有賀 徹  
編集責任者 広報委員長 河村 満  
〒142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8  
TEL: 03-3784-8000 (代表)

昭和大学病院のホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUH/>  
昭和大学病院附属東病院のホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHE/>

### 医学部救急医学講座教授および昭和大学病院長の退任にあたって

昭和大学病院 病院長、救急医学科 教授 有賀 徹

私は、本年度末をもって医学部救急医学講座教授および病院長を退くこととなりました。まずは関係の皆様長い間、多岐に渡ってお世話になりましたことを深謝申し上げます。

さて、私は卒業して9年目に公立昭和病院(都下小平市)に転出し、脳神経外科と救命救急センターの開設に係わり、それぞれ地域医療にドブプリ浸った10年を経て、平成6年に昭和大学に赴任しました。救急部門は多数の診療科・部署と連携して「コンダクター」の役割を担い、地域医療の全体を俯瞰する能力も重要です。そのような経験を経て、平成12年に副院長、同23年から病院長を拝命しました。脳外科医、救急医、部門の長など、つまりはチーム医療の責任者、部門の管理者など多々あって、その後に病院管理者となったわけです。

昭和大学はよい医療者を輩出することが存立の理念です。そのためにはよい現場においてよい教育をすることが重要です。病院ではよいチーム医療を実践することになります。そこには患者さんのために至誠を尽くす心意気で多くの医療者がスクラムを組みます。提供すべき医療内容が多くなり、今やチーム医療は必然です。患者さんを社会に戻すとなれば、院内外の医療資源の投入もやはりチーム医療によります。このように重層した医療機能について、まずは医療者個々による自らの管理、つまり研鑽が求められ、次に複数の

医療者から成る医療チームの管理・運営があります。更に、複数の医療チームを束ねる、部門としての管理もあります。救急部門、手術部門、各病棟・外来などは部門として機能を発揮します。それら全体は病院長、そして病院開設者である理事長が統括します。

院内ではこれらがシステムとなります。幾重にも重なったチーム医療、すなわち組織的な医療が院内で展開します。筆者もこれらの脈絡を立体的に学び、そのようにして、はや2回目の卒業です。ここに皆様大いに感謝申し上げます。ありがとうございました。



私は昭和 52 年昭和大学医学部を卒業し整形外科科学教室（上村正吉教授）に入局しました。障害児(者)に対する医療に興味を抱いたのが整形外科を選んだ大きな理由でしたので、入局後に大学病院や関連病院においても整形外科の研修とともにリハビリテーション（以下リハ）診療にも関わらせていただきました。当時のリハ診療は週一回「リハ診」として行われ、整形外科のみならず他科の入院・外来患者のリハ依頼に対応しておりました。入院期間は現在よりは格段に長く、退院後も外来で長期にわたり継続的なリハを実施できるという現在では考えられないような病院完結型リハを行うことができました。また、リハは患者さんの状態が安定してから依頼されることがほとんどであり、現在では常識となっている廃用症候群の予防という考えもほとんどない時代でした。理学療法室は数名の理学療法士とマッサージ師で活動しておりましたが歴代病院長のご理解のもとに理学療法士の増員そして作業療法士、言語聴覚士の採用が認められ幅広い診療が行えるようにもしていただきました。

整形外科の担当で行われていたリハ診療の体制が大きく変化をしたのは平成 3 年「リハビリテーション医学診療科」が開設されてからで、理学診療科教授であった森義明先生が教授に就任され私もリハ科所属となりました。毎週の教授回診は東病院を含めた全病棟を半日かけて回るとてもハードで目まぐるしいものでしたがよい思い出となっています。その後、専用病床が認められましたが入院症例は治療に難渋する例を積極的に受け入れており、混合病棟であった病棟看護師の方々にとっては不慣れなうえに対応困難な患者さんを担当いただき大変なご苦勞をおかけしました。この時期は昭和大学リハ科の基本的理念を確立してゆく重要な時期でもあり、患者さんだけではなく若手医師に対しても暖かく熱心に対応し協力いただきました皆様にはあらためて感謝をする次第です。

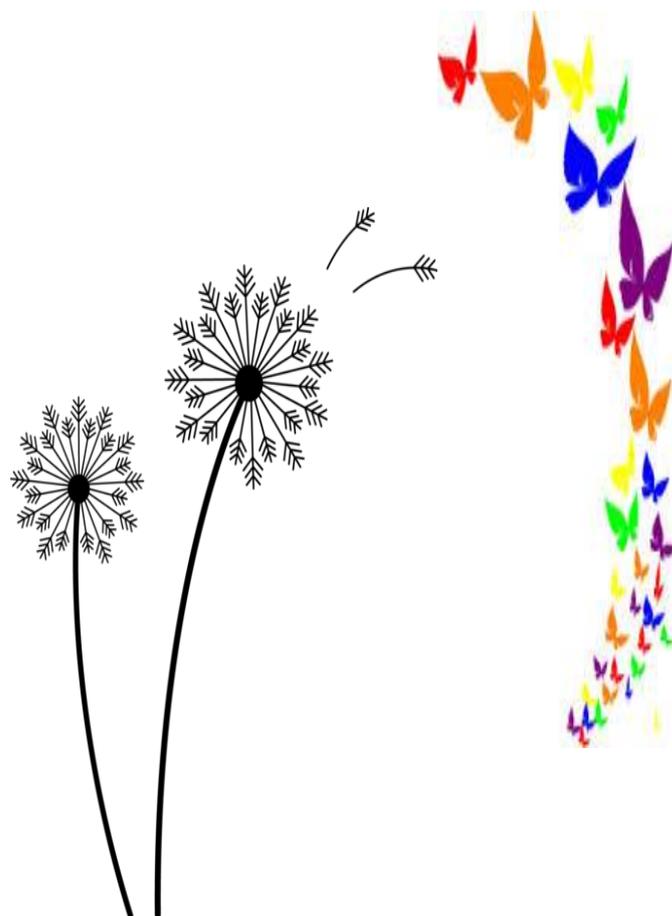
平成 13 年からは森義明教授の後任としてリハ医学診療科科長およびリハセンター長を拝命いた

しましたが、平成 21 年にリハ医学講座の開講が決定され勤務地は藤ヶ丘リハ病院となりました。今日、昭和大学附属病院には急性期 4 病院、回復期である藤ヶ丘リハ病院を合わせて 5 施設にリハ科が設置され全国有数の



リハ部門へと成長させていただくことができました。この間、大学には常にリハ医療にご理解をいただいておりますが一昨年には「急性期リハビリテーションのあり方の検討」を大学のプロジェクトと取り上げていただき、昭和大学におけるこれからのリハ医療・教育の方向性そしてリハ科のあり方をより明確にする大きな機会となりました。

おわりに、常にリハ科を温かく見守りご支援いただきました昭和大学の皆様にあらためまして深く感謝申し上げます。



平成27年度3月末退職者



今井 ひとみ  
看護部 看護補助員  
平成5年2月5日 入職



久保 明  
薬局 薬剤師  
昭和54年10月1日 入職

佐久総合病院 佐久医療センターからの昭和大学病院 救急医学科への御礼状



救急医学科 山下智幸 助教

佐久総合病院佐久医療センターから、昭和大学病院救急医学科、山下智幸助教のご活躍について、御礼状をいただきましたのでご紹介いたします。

※専門用語については、一部言い換えています。

実は貴教室より佐久総合病院佐久医療センターに、山下智幸先生がお見えになられた際に、当センターの産婦症例並びに我々スタッフが大変お世話になりました。そこで、恐縮ながら御礼のお手紙をしたためました。

昨年12月、当センターで出産された経産婦さんが産後大量出血、血液凝固障害に陥り四苦八苦いたしておりました。周産期センタースタッフ、ICUスタッフ、救急外来スタッフなどが応援に駆けつけて対応しておりました。そんな中、山下智幸先生が当センターでの勤務が終了し帰京されようとしていたにもかかわらず分娩室にお見えになり、輸血や全身管理、スタッフのマネージメントなど多くの指示・示唆をしていただきました。僥倖<sup>きやうこう</sup>というのはこのことかと、目の前が開けた思いでした。総出血量5500ccに及ぶ弛緩出血でしたが、何とか子宮摘出を回避し、快方に向かうことが出来ました。その際の先生の御指示指摘は我々にとっては大きな舵取りになりました。スタッフ一同大変感謝いたしております。患者様はICUに1日は入室したものの、一般病棟に戻り無事退院され先日1か月健診も済み、順調な回復を確認いたしました。

山下先生の御指示は機敏で適切であり、おそらく貴講座の技術の高さや、先生方の御指導が卓越しておられる様子が窺えるものでした。病院としても大変感謝いたしております。ありがとうございました。こういった縁を大切に、地方の一病院であっても地域の医療を守り支えるためにも今後生かしてまいりたいと考えております。今後ともよろしく願いいたします。

## 院内コンサート報告

平成 28 年 1 月 23 日（土）中央棟 1 階エントランスホールにて 71 回目の院内コンサートが開催されました。「Open The 2016！今年も楽しいコンサートで『福』を呼び込みましょう！」と、着物姿で華やかなステージを披露してくださったのは「MUSICA FLOR（ムジカ フロール）」のみなさん。3年連続出演となる今回は、参加された方々にも声を出していただこうと、群読や合唱を多く取り入れた画期的なステージで、「大変良かった」との声が多く寄せられました。

奏者：「MUSICA FLOR」（ムジカ フロール）

朗読 島田（伊東）敏恵さん

ソプラノ 岩本津和さん

<ゲスト>ジャズピアニスト・大西まみさん

演目：鉄腕アトム、朝のリレー（詩：谷川俊太郎）、この素晴らしき世界、  
ピアノソロ（大西まみオリジナル曲）、よかったなあ（詩：まど・みちお）、いい日旅立ち  
タイム・トゥ・セイ・グッバイ、花

参加者 102 名

会場ボランティア 8 名

職員 14 名



島田（伊東）敏恵さんの朗読

### ♪参加された方々の声♪

- ・群読がとてもよかったです。みんなで声を出すことは大切だと思います。家に帰って本を家族で群読してみたいと思います。千葉から通いつめて 13 年。良いコンサートが聴けて良かったです。
- ・2 回目ですが、また感動して泣いてしまいました。岩本さんの歌も島田さんの朗読も大西さんのピアノも最高です！言葉も音楽も本当に人の心を揺さぶる力があると、このコンサートに参加するたびに思います。どうもありがとうございました。次回も期待しています。
- ・「生」の迫力はやはり違います。病気で入院しているのに、スゴイラッキー！元気をもらいました。明日退院ですが、入院中のいい思い出になりました。
- ・入院期間中は文字を読むことしかなく、いささか退屈しておりました。その中で素晴らしい音楽、朗読を聞かせていただき感謝します。今後も続けてください。「また来てください」とお願いしますと、また入院しなくてはならず、言わないことにしますが、今後の患者さんのためにも続けてください。

文責：管理第一課 ボランティア担当

## 小児医療センター節分会

平成 28 年 2 月 3 日(水)、入院棟 3 階・4 階の小児医療センターにて、節分会が開催されました。

赤鬼、青鬼 2 人組で子どもたちに会いに各部屋を回った際、怖がる子どもたち、喜ぶ子どもたち、いろんな表情で鬼をむかえましたが、みんな大変興奮していました。

子どもたちの賑やかな声がフロア内に響き、楽しそうな時間を過ごすことができました。



子どもたちが鬼にむかって、「鬼は外、福は内」と叫んでいる様子



赤鬼、青鬼ツーショット

文責：管理第一課

## 第 3 回昭和大学治験セミナーを開催します

昭和大学は、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部を有する医系総合大学です。さらに 8 つの附属病院で約 3200 床を有する臨床分野を保持しており、各附属病院が連携しスケールメリットを活かし、連携して同一プロトコルを実施しています。またそれぞれの附属病院各科の特長を活かしながら、特殊疾患患者の PK 試験などを実施し、優れた医薬品の開発に貢献しています。



また、2011 年には昭和大学臨床薬理研究センター（現：昭和大学臨床薬理研究所）が稼働し始め、2014 年には、大学直下の研究所となり企業主導の臨床試験だけではなく医師主導の臨床試験も実施しております。研究所と附属病院とのシームレスな連携により優れた医薬品を患者のもとにより早く届けることができればと思っています。

今回開催するセミナーでは、昭和大学の附属病院と昭和大学臨床薬理研究所における一体的なシステムが医薬品開発にどのように寄与できるか、また呼吸器領域での現在の治験・臨床試験・今後の展望についてお話しします。

治験依頼者となる製薬企業や CRO（医薬品開発業務受託機関）の担当者と医療機関の医師の情報を共有する機会として本セミナーを企画致しました。



日 時：2016 年 3 月 10 日（木）17 時～18 時 30 分

場 所：昭和大学病院 入院棟地下 1 階 臨床講堂

近年、医療における栄養管理の重要性が認識されるようになり、栄養科の業務も大きく変化してきました。以前栄養科の業務は食事の提供が主でしたが、現在では NST (nutrition support team : 栄養サポートチーム) などを通じ、入院患者さんの栄養管理や栄養指導を行うなどの業務にシフトしています。そのうちのいくつかの業務を紹介します。



- ① N S T : 栄養状態の悪い患者さんを対象に、現在の栄養状態の評価や摂取栄養量などから栄養学的問題点を抽出し、食事、経腸栄養剤、輸液を含めたトータルな栄養管理法を主治医に提案しています。
- ② 栄養管理 : がんなどにより食事が十分に食べられなくなると栄養状態が低下し、化学療法などに耐えられなくなる場合がありますが、食事の形態を工夫したり、患者さんに適した栄養剤を使用したりすることで、これらの患者さんに対応しています。
- ③ 栄養指導 : 従来の腎臓病や糖尿病の栄養指導に加え、食物アレルギーや糖尿病透析予防指導など新たな領域の栄養指導も開始し、患者さんの治療に貢献しています。
- ④ 給食管理 : 常食の選択メニューを毎日実施するなど食事サービスの向上を図るとともに、嚥下障がい食の改良などによって摂食機能の低下した患者さんへの援助なども行っています。

これらの業務は栄養科だけでなく、医師、看護師、薬剤師、歯科医師など多くのスタッフとの協働で行っており、栄養管理はまさしく“チーム医療”そのものです。今後も私たちをどんどん利用してください。よろしくお願いします。



病棟との NST カンファレンス(CCU)



栄養指導



栄養科スタッフ

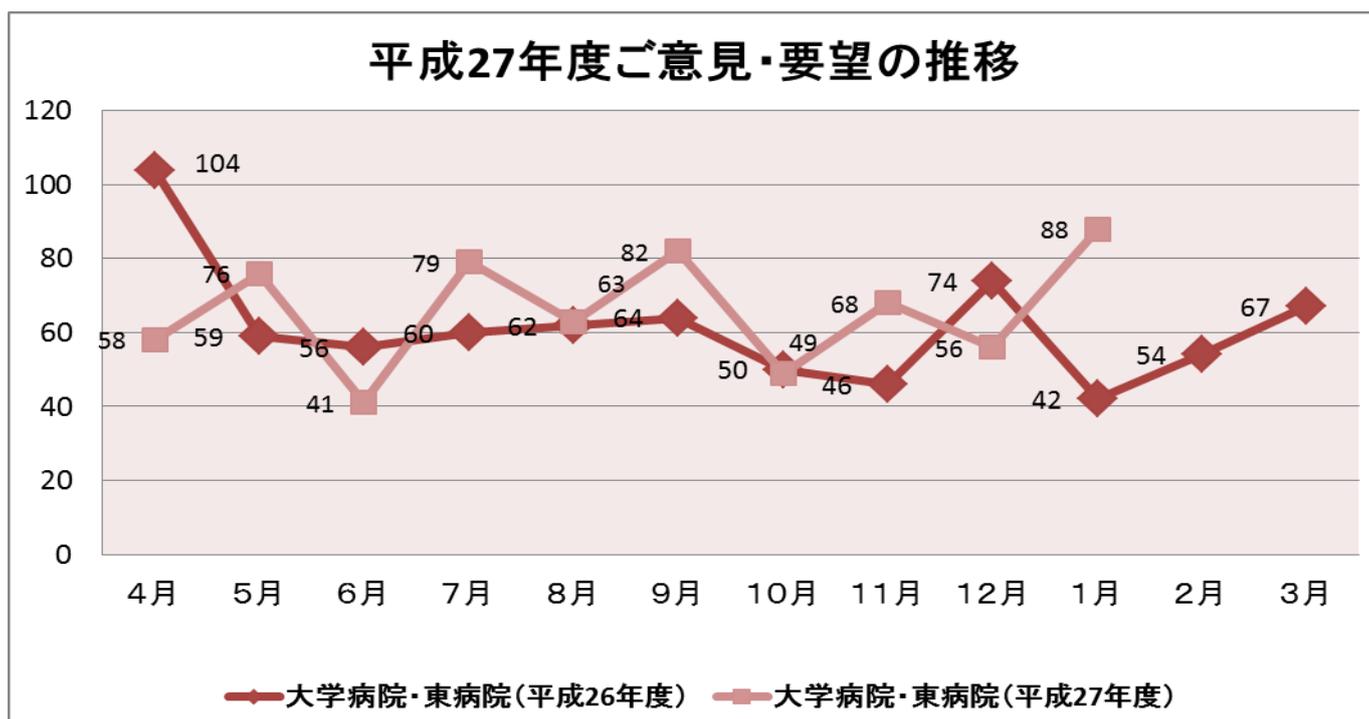
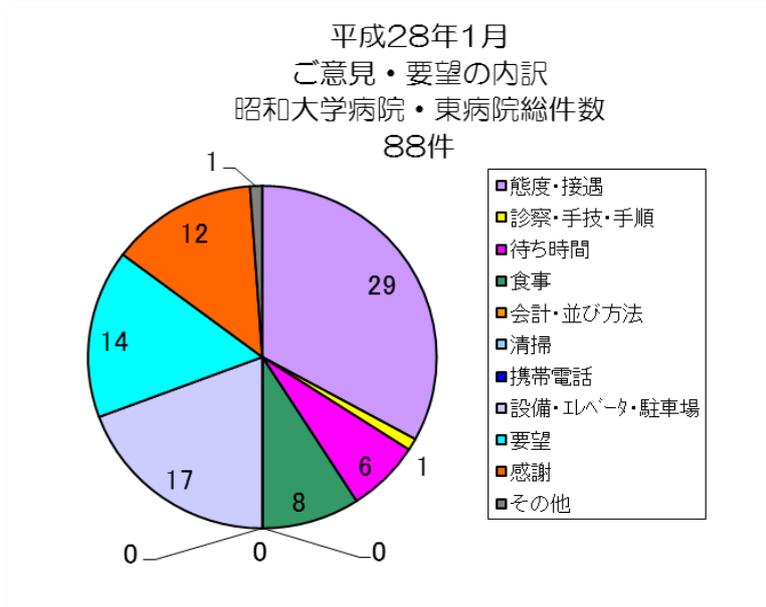


盛り付け作業



**患者さんのご意見・要望**

ご意見・要望	回 答	回答部署
<p>できるだけリハビリの時間は前日に教えてもらいたいです。</p>	<p>前日から当日の朝までの各患者さんの体調を確認し、リハビリ時間を設定しているため、リハビリ時間を当日の朝、病棟に伝える方法をとっております。</p> <p>現在、病棟スタッフの協力を得て、前日に時間を決められる方に関しては伝えるよう努めております。</p>	<p>リハビリテーションセンター</p>



## 各種お知らせ

- ・第72回昭和大学病院院内コンサート  
日 時：平成28年3月19日（土）15:00～  
場 所：中央棟1階ロビー  
出 演：TMW(早稲田大学グリークラブOBの方々)  
内 容：男性コーラス



## 編集後記

12月の暖冬のおかげでインフルエンザの流行入りが遅れた2月は、我々の油断もあってか、職員の感染者もやや多かったように思います。世界を見渡してみると昨年のエボラ熱やMERS騒動がやっと一段落かと思えば、新しいジカウイルス感染症も昨今話題となり、我々感染症専門医は最近息つく暇もありません。春になれば各種ウイルス感染症も多少は鳴りを潜めてくれるかと思いますが、まだまだ冷え込む日々も当分はあるでしょう。みなさんも今しばらくは健康管理・感染対策に気を抜かないことです。

感染症内科 二木芳人

## 昭和大学病院・附属東病院の理念

- ・患者さん本位の医療
- ・高度医療の推進
- ・医療人の育成

## 昭和大学病院・附属東病院の基本方針

- ・患者さんが受診しやすい、患者さんのQOLを重視した、質の高い医療を提供する。
- ・地域医療機関との連携を推進し、特定機能病院としての医療を担う。
- ・教育病院としての機能を充実して卒前・卒後の研修・実習および生涯教育を通して、質の高い医療人の育成を行う。
- ・生命倫理を尊び、科学的根拠に基づいた高度な臨床研究を実施する。

ご意見・要望につきましては、メールアドレス：[tayori@ofc.showa-u.ac.jp](mailto:tayori@ofc.showa-u.ac.jp)までお願いいたします。

病院広報委員会委員： 荒川 千春、板橋 家頭夫、伊藤 亜紀子、片保 裕基、門倉 光隆、河村 満、日下部 まり奈、佐藤 久弥、田代 ゆい、田中 克巳、二木 芳人、平野 勉、吉田 仁、渡邊 聡（50音順）

### お詫びと訂正

病院だより2016年2月号の巻頭言の内容に誤りがございました。

【誤】初期臨床研修医2年次代表 金澤 健

【正】初期臨床研修医2年次代表 金澤 建

訂正してお詫び申し上げます。